

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えを図や式に表し、説明する活動に継続して、系統的に取り組んできたため、思考・判断・表現や活用する力が付いてきている。

(2) 課題

- ・プリントやタブレットを活用した繰り返しの学習を継続して行い、基礎・基本の数の理解や計算力などの定着を目指す。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	達成率は7割を上回っている。		
第5学年	達成率は7割を上回っている。	(第4学年時) 達成率は約8割である。	
第6学年	達成率は7割を上回っている。	(第5学年時) 達成率は7割を上回っている。	(第4学年時) 達成率は約8割である。

達成率とは、目標値^{※1}以上の正答率^{※2}だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100(％))

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。 ・小数の相対的な大きさやわり算の正しい立式を問われる問題で正答率が低くなることから、小数のしくみや四則計算の学習の習熟不足が見られる。	・おおむね目標値を5ポイント以上上回っており、基本的な内容の習得はできている。 ・第4学年では、□を使った式に関する問題についてのみ目標値をごくわずかに下回っている。	・自力解決や意見交換といった学習活動にも、意欲をもって取り組もうとする児童が多い。 ・第4学年では、観点別の問題において、おおむね目標値を上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。 ・第5学年では、図形の作図や大きい数のしくみに関する問題で正答率が低いことから、他の領域に比べて習熟不足が見られる。	・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。 ・第6学年では、比例や割合など変化と関係の領域に関する問題で目標値を5ポイント余り下回っている。	・自力解決や意見交換といった学習活動が習慣付いてきており、自分の考えをまとめて、ペアやトリオで積極的に意見交換をしている。 ・全体の場面での発言や発表については、個人差が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・たし算やひき算は計算カード等を活用して繰り返し練習して定着を図る。 ・2桁のたし算やひき算では、10に対する補数を意識させることで、計算の仕方を身に付けさせるとともに、タブドリLive！を活用し、繰り返し取り組ませる。 ・長さや水のかさについて、実際に操作をさせながら、量の大きさを予想し、実際の計測値と比べることを通して、単位の意味や関係を理解させる。	・文章題では、分かっていることを整理し、「合わせて」「のこりは」などの言葉に注目させて正しく立式できるようにする。 ・具体物やブロック操作の時間を確保し、図や立式に結び付けて考えられるようにしていく。 ・ブロック操作を振り返りながら文章題をテープ図に表す練習をし、数量関係の表現ができるようにする。 ・考え方を図や文章、式など、多様な方法で表現し、交流する場を設ける。	・日常生活と算数を結び付けられるように導入を工夫する。 ・既習事項とのつながりを意識しながら新たな問題に取り組めるよう導入を工夫する。 ・デジタル教材を活用し、教室内では計測できない量を視覚的に捉えさせる。 ・長さや水のかさについて、量の大きさを予想し、実際の計測値と比べることを通して、数理的な処理のよさに気付く、今後の生活に活用させる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・具体物や半具体物、数直線などを活用して、小数の大小関係を考えられるようにする。 ・毎時間の授業で、わり算とかけ算の関係に着目し、具体物や図、式を用いて計算の仕方を考える活動を取り入れる。 ・個別またはクラスごとの習熟度や課題に応じて、復習する内容を明確にし、プリントやタブレットドリルを活用して基礎基本の定着を図る。	・似ている場面の既習に立ち返り、既習事項を生かして解決することを考えて、問題に取り組めるようにする。 ・計算の意味や仕方を、具体物や言葉、数、図、式などを用いて表せるようにする。 ・他者の考え、図や式について聞き取ったこと、読み取ったことを自分の言葉で説明する。他者の意見や活動を知り、認め合う活動を通して学習内容の理解や学び方の変容を図る。	・児童個々の理解度や学習状況、単元の特性等を考慮して習熟度別学習のクラス編成を行い、すすんで学習に取り組めるようにする。 ・デジタル教科書や具体物、ワークシート等を習熟度別クラスの実態に合わせて活用する。確実な問題把握や多様な表現ができるようにする。 ・自力解決や意見交換、話し合い活動の場では、多様な見方や考え方を試みることを促す。自他の考えを比べるなどして、継続して授業内でのコミュニケーションの充実を図る。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・大きな数の学習では、国の人口や予算などの日常生活の具体的な場面を取り上げる。位取り表や4桁区切りの命数法を繰り返し用いて、億や兆の単位も既習事項から類推して考え、読み書きできるようにする。 ・図形の性質や作図について、関連する領域や授業において、必ず既習事項の確認をして定着を図る。 ・個別またはクラスごとの習熟度や課題に応じて、復習する内容を明確にし、プリントやタブレットドリルを活用して基礎基本の定着を図る。	・既習の学習場面や内容を生かし、そこからの類推的な考え方や演繹的な考え方から、問題解決に取り組めるようにする。 ・比や割合の学習では、毎時間数直線や線分図を用いて計算の意味や仕方を考え、立式できるようにする。 ・他者の考えから学んだ内容や、図や式からよみ取った内容を自分の言葉で説明するなど、児童同士で意見を聞く活動や、活動から意味や意図を読み取る活動を行い、学習内容の理解や学び方の変容を図る。	・児童個々の理解度や学習状況、単元の特性を考慮して習熟度別学習のクラス編成を行い、課題意識をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・デジタル教科書や具体物、ワークシート等を習熟度別クラスの実態に合わせて活用する。問題把握や多様な表現ができるようにする。 ・自力解決や意見交換、話し合い活動の場では、多様な見方や考え方を試み、比較検討を加えることで、算数の授業内でのコミュニケーションの充実を継続して図っていく。